

祝 辞



厚生労働省
健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室
室長

野田 博之

日本造血細胞移植データセンター10周年にあたり、心からお祝い申し上げます。また、日頃から造血幹細胞移植の推進に多大なるご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成26年に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が全面施行されて以来、移植後の患者データ、提供後のドナーデータ等の収集・解析により、多くの研究成果がもたらされ、近年の造血幹細胞移植の礎となっていることは言うまでもありません。

また、集積されたデータは日本のみならず海外ともデータの利活用が行われ、その要としてご尽力いただきました日本造血細胞移植データセンターの皆様には深く感謝を申し上げます。今後も、日本造血細胞移植データセンターの活動を通じた造血幹細胞移植医療の更なる発展を期待するとともに、益々の御活躍と御健勝をお祈り申し上げます。



日本造血・免疫細胞療法学会
理事長

北海道大学 血液内科
卓越教授

豊嶋 崇徳

日本造血細胞移植データセンター開設10周年を心よりお祝い申し上げます。

その頃、日本でG-CSF投与を受けたドナーが白血病を発症するという不幸なことがあり、貴センターの当初の最大のミッションはドナーへのG-CSF投与の安全性の調査でした。欧米のセンターに比較し、人的・資金的に圧倒的に劣る中で、貴センターは世界でも最も質の高いデータでG-CSFの安全性を示されました。一気に欧米のデータセンターから一目おかれる存在となり、大変誇りに思いました。貴センターは日本の臨床医学領域ではおそらく最高レベルのデータセンターへと発展し、国から依頼され、新たな免疫細胞療法データのプラットフォームの機能を追加しました。

さらに、日本造血・免疫細胞療法学会会員の臨床研究支援、新規薬剤の市販後調査と末広がり展開をみせています。思い返しますれば、わずか10年でここまでの高みに到達されたことはスタッフ一同の資質、努力の賜物であります。今後さらに期待して見守っていきたいと思います。



日本骨髄バンク
理事長

愛知医科大学 造血細胞移植振興寄附講座
名誉教授 造血細胞移植センターアドバイザー

小寺 良尚

日本造血細胞移植データセンターが創立10周年を迎えたことを先ずは全国の関係者の皆様とともに喜びたい。我が国の造血細胞移植データの集計は1980年台半ば、正岡班によるはがき一枚の調査から始まる。それでも対象疾患をはじめとするかなりの情報が得られ、全国の移植情勢を知ることが出来た。その後これらデータ集計継続の重要性が認識され、日本造血細胞移植学会の事業として実施して行くこととなった。内科、小児科を合わせた造血細胞移植学会としてのデータ集計事業開始には、学会事業として行うという点では先輩格の小児血液学会の長尾大先生、気賀沢寿人先生と、統一データ管理・解析を指導された浜島信之先生の雅量、指導力に拠るところが大きい。

今年年間5000件に迫る移植データは、その登録率の高さで極めて優れたものであるが、これは全国の移植チームが、登録データが適切に解析され、そこから得られる結果が自分たちの益にもなるという相互信頼に基づくものであり、データセンターがこの特質を大切にしながら今後とも発展して行くことを願っている。



日本赤十字社
血液事業本部 技術部
主幹

石丸 文彦

日本造血細胞移植データセンター(JDCHCT)設立10周年おめでとうございます。

「造血幹細胞移植を受けた患者さんの治療成績と造血幹細胞を提供したドナーさんの安全性の向上、そして造血細胞移植医療の更なる発展のための全国調査事業」に留まらず、最近では再生医療等製品患者登録システム・細胞治療レジストリ・GVHDレジストリ、と益々ご活躍のことお慶び申し上げます。

さらに造血細胞移植登録一元管理プログラム(TRUMP)で収集されたデータを用いた臨床研究も、2013年には20編さらに2019年には50編を超えて、造血細胞移植医療への貢献は目を見張るものがあります。

ただ「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」により国庫補助を得たとはいえ、まだその基盤は脆弱であることが窺われ、現状あるのは熱田センター長はじめ関係者皆様のご努力の賜物とご推察致します。

盤石の基盤を築く充分な支援を獲得され、一層の発展を遂げられることを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



Medical College of Wisconsin
Center for International Blood and Marrow Transplantation
Professor, Deputy Cancer Center Director

Mary M. Horowitz

Congratulations to the Japan Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation (JDCHCT) for 10 years of contributions advancing HCT and cell therapy. Building on Japan's long tradition of scientific discoveries and national and international collaboration in HCT, the JDCHCT continues to provide important data and leadership for the field. Working with scientific societies and transplant centers in Japan and with international organizations such as the Center for International Blood and Marrow Transplant (BMT) Research, the European Group for BMT and the Worldwide Network for BMT, the JDCHCT plays a critical role in setting international standards for data collection, sharing and analysis. Its systematic collection of outcomes data enables rigorous studies addressing issues of importance to Japan and to the rest of the world, includes assessing outcomes in specific groups, comparing results of HCT from diverse donor types and understanding the clinical impact of specific types of HLA mismatching. It is now using its expertise and infrastructure to similarly advance our understanding of the utility of non-HCT cell therapy. Thank you to our JDCHCT colleagues for their expertise, scientific contributions and collegiality.



Professor Emeritus of Hematology from Paris University
President of Eurocord

Eliane Gluckman

On behalf of Eurocord, I extend our sincere congratulations on the 10th anniversary of the Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation (JDCHCT). Over the past decade, JDCHCT has made a significant impact on the field of hematopoietic cell transplantation (HCT), supporting medical professionals, researchers, and patients in Japan, and helping to improve the quality of care and outcomes. The interest of JDCHCT in umbilical cord transplantation (UCBT) and the extended use of this graft source in Japan have contribute to our increasing research collaborations in the last few years. Your commitment to data collection and analysis has enabled important research contributing to advancements in the field of UCBT by providing valuable insights into transplant risk factors and clinical outcomes. In addition, through great collaborative work with Eurocord and other institutions, the data provided by JDCHCT have, undoubtedly, contributed to a better understanding of the differences and similarities of HCT in populations with different ethnic backgrounds. I have great pride and gratitude for the studies we have performed together and the resulting publications in renowned scientific journals. As we mark this important milestone, we celebrate your achievements and look forward to continued collaboration in the future.



愛知医科大学
理事長・学長

祖父江 元

創立10周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。
昨年、日本造血細胞移植データセンターは、愛知医大に移転していただき2年になるところです。同時に連携大学院を愛知医大との間で締結いただいております。全国から12万例を超える登録データが蓄積されており、最近では免疫細胞治療などのデータも蓄積され、素晴らしい研究成果が生まれ発展しております。
文字通りの我が国を代表する造血細胞移植・細胞治療のデータセンターをお迎えしていることは、愛知医大としても大変嬉しく思っております。長年にわたる関係者のご努力に改めて心からの敬意を表するものであります。誠におめでとうございます。
最近の臨床医学研究では、大規模なビッグデータをベースに数理解析によって新しい知見を導き出すビッグデータサイエンスが大きく発展しています。
データセンターでは、今後ビッグデータサイエンスのリーダーとしての役割も果たして頂きたいと思っております。愛知医大としても全力でサポートしていきたいと思っており、今後のますますのご発展を祈念いたします。



名古屋大学大学院医学系研究科
血液・腫瘍内科学
教授

清井 仁

この度、一般社団法人日本造血細胞移植データセンターが法人設立10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。
これまでに造血細胞移植医療において日本造血細胞移植データセンターが果たしてきた功績は計り知れないものがあります。これまでに蓄積されてきた我が国の造血細胞移植レジストリーは、日本人における移植医療の特徴を明らかにするだけでなく、数多くのエビデンスの創出の基盤となりました。日本造血細胞移植データセンターの設立から今日に至るまでの歴代の理事長はじめ、関係各位のご尽力に敬意を表すると共に感謝申し上げます次第です。
なかでも、データセンター長として体制整備やデータ管理のみならず、グローバル化、事務所移転などの実務において類い希なリーダーシップと調整能力を発揮されてきた熱田由子先生の存在なくしてはここまでの発展と安定した運営は成しえなかったと思います。今後、更に日本造血細胞移植データセンターの果たす役割の重要性は増してくると思っておりますが、益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

祝 辞



名古屋大学
名誉教授

浜島 信之

日本造血細胞移植データセンター設立 10 周年おめでとうございます。
齋藤英彦先生に命じられ 1993 年に開始しました造血細胞移植全国調査がデータベースとなり、このデータセンターへと発展してきましたこと、たいへんうれしく思います。協力頂いた全国の造血細胞移植施設の先生方、初期の段階で事務局としてお手伝い頂いた松尾恵太郎先生、その後の事務局の発展に大きく貢献されました熱田由子先生、この活動を支えて頂きました血液内科の先生方、この活動の発展に寄与した学術団体、臍帯血バンク、これらの組織で活動されました皆さんと共に、この喜びを分かち合いたいと思います。

エビデンスなくして医療の発展、選択はありません。日本造血細胞移植データセンターの造血細胞移植の成績が、我が国の多くの患者さんや血液内科の先生方の治療選択に役立つものとなり、北アメリカ、ヨーロッパの造血細胞移植データセンターと並ぶアジアのデータセンターとなりました。更に実りある活動を続けられますことを願っています。



高根大学医学部
血液・腫瘍内科学
教授

鈴木 律朗

日本造血細胞移植データセンター設立 10 周年おめでとうございます。母体となった造血細胞移植学会データセンターの黎明に携わった者として、感慨もひとしおである。日本造血細胞移植学会データセンターは、骨髓移植のデータ登録を個人的な努力で開始された名古屋大学予防医学講座教授浜島信之先生の後を受け、2006 年に産声を上げた。当時は成人と小児が別々の学会でデータを収集しており、骨髓バンク・臍帯血バンクも別組織でそれぞれデータを収集しており、個々の移植施設はバラバラにデータを提出していた。単純に合算すると非血縁のデータは一部重複（一部施設が学会にもデータ登録）、成人血縁移植データは一部欠損（学会へのデータ提出は任意であったため）しており、全貌は誰にも分からない状態であった。移植登録一元化委員会を設立し 4 団体の利害を調節するとともに、データ提供をしていなかった大手移植施設を訪問して最初の移植登録データの入手を手伝いながら始めてもらったのも、懐かしい思い出である。同時に、CIBMTR、EBMT との国際協力、APBMT としてのアジアの移植登録の開始と、目が回るような忙しさであった。これらは、熱田由子先生、飯田美奈子先生の尽力によるもので、現在の彼女たちの役割に連なるものである。日本の造血細胞移植登録は多くの研究・業績を生み、世界から注目される存在であり、その管理者である彼女らは国際的にも通用するスター研究者となった。次の 10 年、彼女らも世代交代を迎えるが、新たな登場人物を迎えて日本のこの世界に誇れる登録機構が更に発展することを祈念したい。



日本骨髓バンク
理事・メディカルディレクター

日本さい帯血バンクネットワーク
元会長

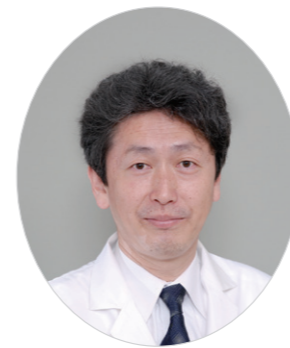
加藤 俊一

日本造血細胞移植データセンター設立 10 周年、まことにおめでとうございます。
1980 年代初頭からデータセンター設立までの数十年間本事業に関わってきた身として、喜びと感慨は一入のものがあります。

わが国における造血細胞移植の全国的な登録は 1980～90 年代にかけて 4 つの組織によって互いに関連しあいながらも独立して開始されましたが、重複登録やデータの互換性の欠如が大きな問題となっていました。

2003 年 12 月に開催された第 26 回日本造血細胞移植学会総会において会長報告をまとめるにあたり、私は 4 つの登録を統合して一元化することが急務であると痛感いたしました。2004 年 2 月に 4 団体の関係者による準備的な会議において一元化の基本的合意が得られ、2004 年 3 月に学会の中に一元化ワーキンググループが結成されました。

その後の発展とデータセンターの法人化から今日に至るまでの経緯は本記念誌に詳しく述べられているとおりで、事業の遂行に尽力されている関係者の皆様のご努力に敬意を表しますとともに、益々のご発展を祈念してお祝いのメッセージとさせていただきます。



国立がん研究センター中央病院
造血幹細胞移植科
科長

福田 隆浩

一般社団法人日本造血細胞移植データセンター (JDCHCT) 10 周年、おめでとうございます。法制化を前にして 4 つのグループの情報を一元化する取り組みが始まり、日本造血・免疫細胞療法学会に 23 個のワーキンググループが設置されたころを振り返ると、感慨深いものがあります。年間 5500 件を超える造血細胞移植の情報を集約した TRUMP に加えて、2020 年からは CAR-T 療法の情報を収集する FormsNet も開始されました。ワーキンググループの活動は年を追うごとに活性化され、2019 年以降は年間 50 個前後の臨床研究が論文化されています。

造血細胞移植を受ける患者さんの年齢、原疾患、ドナータイプは様々であり、移植後の合併症も多岐にわたっています。臨床の現場では、TRUMP の情報を基に方針を決めることも多く、本当に助かっています。「移植を受けた全ての患者さんの情報を将来へ活かしたい」という JDCHCT の皆様の取り組みに、深く感謝申し上げますと共に、今後も益々の発展を期待しております。

祝 辞



血液情報広場・つばさ
理事長

橋本 明子

もう10年、と驚くと同時に、発足当初のワクワク感を思い出しました。
それに至る20年以上前に骨髄バンクが稼働しましたが、当時の移植の成績(データ)は当事者にとってはなかなか怖い数字でした。それは治る希望というよりも「これに賭けるしかないか」と言わざるを得ないパーセンテージでした。でも医・薬の研究開発は滞ることなく、徐々に、私のような素人でも成績向上を実感するようになりました。また近年は造血細胞移植の技術も医療環境も大きく改善され、治ったひとの「治り方」が違ってきました。そんな状況の変化を背景に、当事者はDCのサイトで年齢・疾患・移植ソース別など多様なデータを探せるようになっていきます。

ところで私はといえば、今も先に述べたワクワク感やデータ向上への期待感を持ちつつ、主催するセミナーで日本の造血細胞移植の成績表にJDCHCTの青いロゴマークを認める時、これからもまるでDCの関係者のように誇りを感じ続けたいと思います。



医学生物学研究所
営業本部 本部長

日本骨髄バンク
理事

三田村 真

JDCHCT 設立10周年誠におめでとうございます。関係者のご尽力により造血細胞移植全症例登録というナショナルDBとして素晴らしいインフラを整備されたことに心より御礼と敬意を表します。

日本骨髄バンク創設の市民ボランティアから出発した私は二度の非血縁者間BM提供経験をベースにJMDPデータ・試料管理委員会副委員長時代に造血細胞移植登録一元管理委員会に派遣されたことがJDCHCTとの関わりの端緒でした。当時各機関のルールの相違から全体論提案は困難を極めました。移植医療に直接利害を有しない私が新機構の基本法である「一元管理委員会規約」、「データ利用細則」、後に「WG運営規約」の規定類をDraftから作成、起案しました。この間鈴木律朗先生(現島根大)、熱田由子先生(現センター長)との連携で強力でドライブしていた頃が非常に懐かしく、以後センター発足後は監事として業務監査、一元管理委員としての審議に関与していました。引き続き我が国の移植医療にとっての貴重な資産を維持発展し、国際化に寄与するよう祈念いたします。